

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2025 年 1 月 30 日(木)			
開催時間	開会	18：30	閉会	20：45
開催場所	市役所 5 階 502 会議室			
出席者				
協議会・WG メンバー	黒河内貴氏、志知貴文氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、土田智氏、瀧内貫氏			
事務局・職員	企画部：織井企画政策課長、有賀企画政策課長補佐、村田新産業技術推進係長、福原新産業技術推進コーディネーター			
関係者	—			
欠席者	細谷啓太氏			
議事	1、対話・つながり・実現の場の振り返り 2、今後の進め方について			

議事項目	概要	次のステップ
1、対話・つながり・実現の場の振り返り		
01_テーブル振り返り	○WG メンバー ・ブランディングといった客観的、俯瞰的な話がたくさん出た一方、個人の感情、気持ちや体験に即した話はなかなか出づらいのかなという感想を持った。俯瞰の目線からできるだけ降りてもらい、気持ちや感情をベースに対話を深めていければよいと思った。 ・「古いものは宝」というキーワードが強く出て、盛り上がる内容であった。盛り上がるということは、そこから対話に繋がり発展しやすいので、「古いまちをどう魅力的にしていけるか？」という「問い」は、例えば若者にとって対話のきっかけになると思う。 ・印象的な話として、「生まれた時から、目の前の道がずっと『旧道』と呼ばれていて、とても悲しい」という話があった。これは、この方の個人的な気持ち、個人的なまちとの関係から出てきた言葉で、すごく求めている言葉であったが、意外に反応する人がいなかった。こういった意見を今後どう繋げていくかはファシリテーターの課題と感じた。 ・例えば「道に名前を付けよう！」というのは、すぐ立ち上がりそうなテーマだと思ったが、他の参加者	

02_テーブル振り 返り	から見ると魅力的に映らなかったということは不思議に感じた。 ・今回3タームで行ったが、1タームや2タームとして、対話の時間を長くし、じっくり気持ちや感情をベースに対話を深めていくと次に繋がるかもしれないと思った。 ○WG メンバー ・「旧道」という呼び方が「悲しい」というのは、「古い」ということに対して「ネガティブ」な捉え方をしているからだと思うが、逆に「古い」とか「レトロ」が好きだから「旧道」という呼び方が残っているという捉え方もできるのではないかな。 ○WG メンバー ・都市のグランドデザインが更新されているかというのは、議論の一部になりうるという気がしている。 ○WG メンバー ・都市計画道に関しては、厳しい縛りがあり書き換えが難しいが、ゾーニングの捉え方は近年更新している。 ○WG メンバー ・そのあたりは、このWGで把握しておきたい。 ○WG メンバー ・都市計画道は、中心市街地より外側の環状線などの縦筋、横筋で、国が関わってくるが、通り町は県道なので割と市レベルでも変えられる自由度があるかもしれない。 ○事務局 ・歩道のカフェ利用などは都会で行われており、そういった方向には国も理解があると思う。 ○事務局 ・参加者に移住者の方が多かった。 ・以前は単発だったイベントが朝マルシェのように日常化されてきたという話や、レトロなものに魅力を感じているという話が多かった。 ・特徴的な話としては、役所的な施設が離れていて使いづらいという話から、それらを集約して短時間で用足しができるようにするべきという話と、逆に時間を使ってゆっくり過ごせる場所を創出した方がいいという話が出た。 ・その他に出た話としては、若い人が勉強する場所、過ごす場所、誰とでも話ができるサードプレイスのような場所があったらいいという話、地元なのに地元のことをよく知らないという話、レトロな魅力で外か	WGにおいて、都市計画の インプットを行う。
-------------------------	--	-----------------------------------

03_テーブル振り 返り	ら人を呼び寄せて賑わいを創出したいといった話があった。 ○WG メンバー ・「長野県内の知名度がない。長野市や松本市の方が有名」という意見は深掘りして聞いてみたい。お金を持っている大人からすると、たしかに松本市は何でもあるまちかもしれない。一方で、お金を持っていない高校生からすると、お金を掛けないと過ごせないまちは、何もないまちになってしまう。 ○WG メンバー ・最近寒い中、中学生か高校生の男女が何人かで、伊那公園でブルーシートを敷いてお弁当を食べていた。多分お金がないから、公園で合コンしていたのではないかと思う。 ・自分たちが中学生の頃も、塾帰りなどに、お店に入るでもなく、いつまでも喋っていたりしたことを考えると、そういう場所があるといいのかなと思う。 ○WG メンバー ・今、上諏訪駅前には、高校生が「いい！」と言っていて、なぜかという無料で入れる大きな場所があって話ができるからだと思う。 ○事務局 ・過去においては、飲食、学校、仕事などの生活の場所であったという話が多かった。 ・現在・未来においては、お店を探す、穴場を見つけるという発見を楽しんでいる、楽しみたいという話、何も考えずに自分の肩書などを忘れてくつろげる場所でありたいという話が多かった。 ・くつろぐためには、もっとコンセントがほしいであるとか、無料の駐車場がほしい、空き店舗を集めてほしいという具体的な施策要望のような話も出た。 ○WG メンバー ・「どうやって知り合い作ってます？」という付箋は面白い。これ自体が問いにもなる。 ○WG メンバー ・多分まちなかには放射状の先の点はいっぱいあるが、その中心にあるべきいろいろな人が交差する場所が少ないのではないか。 ○WG メンバー ・知らない人に声を掛けてもよい空間みたいなものがあればよい。すまいテラスいなの2階は、そういったことも意識して造っている。 ○WG メンバー	
-----------------	---	--

04_テーブル振り返り	・自分のテーブルに来た移住者の方は、移住者同士の繋がりは結構あるが、元々住んでいる人との繋がりが無いので、飲み屋行って声を掛けて友達を作っていると話していた。そうしたら第3ターム目でその飲み屋で作った友達の方と同じテーブルになっていた。 ○WG メンバー ・「対話の場」の取組自体がその場になるのではない。協議会にメンバーが集まり、年齢も出身もバラバラな人たちがだんだん知り合って繋がっていく。 ○WG メンバー ・3タームかけて「しがらみ」と「安心できる人との繋がり」の違いって何？という話をした。 ・印象に残ったのは、外国人向けのガイドツアーをやっている方の話で、最初は外国人に紹介する場所がないと思っていたが、やっているうちに意外に面白い店等があり、お店や人と知り合うことで、そこからさらにまちの情報が得られたというもの。 ・お店や人と繋がれるかどうかで、得られる情報が変わる。そこへ行けば情報がある、人と繋がれるという場所があることが大事であると思った。 ○WG メンバー ・今話を聞いていて、伊那市には交流の拠点みたいな場所が結構あるというイメージを持ったが、住んでいる方の目線ではどう感じているか。 ○WG メンバー ・もともと伊那市に住んでいる、ある一定の人がいるネットワーク、移住者の方のネットワーク、それぞれにあると思うが、その2つが交差する場は極めて少ないと思う。 ○WG メンバー ・関係案内所機能を持つ場所や人、社会的処方という話は、テーマになりそうな気がする。 ○WG メンバー ・どう案内されるかも大事である。例えばデザイナーを紹介してくださいというと、どこに相談しても同じデザイナーを紹介される。仕方のない面もあるが健全な状態ではない。 ○WG メンバー ・相談の質に応じて、相談に来た人に案内してすぐ帰すのではなくて、相談を貯めるという機能も大事かもしれない。 ・兵庫県豊岡市に「だいかい文庫」	
--------------------	---	--

05_テーブル振り返り	https://daikai-bunko.com/という本屋があり、居場所の相談所をやっている。心理療法士までいて、暮らしの中の悩みも相談できる。 ○WG メンバー ・関係案内所には、ハード、人、両方に顔が利く人が必要で、なかなかいないと思うがその人の役割が貴重である。 ○WG メンバー ・まちなかの人のためのまちづくりになってしまうのは少し危険だと思っているが、第1タームのメンバーは、高遠に住んでいる人、まちなかでお店をやっている人、今日誘われて来ましたという人と、属性的には非常にバランスが良かった。 ・まちなかの方はわりと手段の話をされて、居場所を運営している、まちなかで過ごす時間が増えればよい、学生が集まればよい、サードプレイスや実践の場があればよいといった話があった。 ・高遠の方からは、歴史やレトロな街並みが知られていないといった話があった。 ・ファシリテーターとしては、手段の話中心にならないように、「どんな場にしたいか」、どうプロモーションするかではなく、「まちなかが伊那市のプロモーションのフラッグシップの場になるとどうか」という方向で進められて面白かった。 ・帰国子女の方からは、オーストラリアでは地産地消のマルシェで、まちの外の畑で採れた野菜をまちの中で売り、まちの中のお店がその野菜を買って地産地消しているということをプロモーションにも利用しているという話があった。 ・プロモーションの話では、私たちはこんな風にプロモーションや場づくりをしているというプロセス自体を細かく発信することで、「伊那市はこんなところですよ」ということが、まちなかを媒体として発信できるのではないか、プロセス自体をまちづくりにしてしまいたいという話があった。 ○WG メンバー ・「アーバンデザイン」という付箋はどんな意味か。 ○WG メンバー ・この付箋を書いた方は、いろいろなまちに引っ越しをして仕事をしてきて、今は伊那市に落ち着いている建築士の方である。 ・この方は、「今までアーバンデザイン的な感覚でまちを見てきて、どのまちも十把一絡げなアーバン	
-------------	---	--

06_テーブル振り 返り	デザインだと感じていたけれど、伊那市は何か違うと感じた。伊那市の都市計画は、市民が潜在的に「そういう風」に持って行っている気がする。言葉にしていなくても市民がすでにまちづくりをしていて、外から見るとすごく面白いアーバンデザインになっている可能性がある。ただそれを、『伊那のまちづくりはこうです。市民がこう思っていたから今のまちの状態があります。』と言葉にして表現してしまうのも、どうかな?」と話していた。 ・「レトロ」というようなレッテルを貼りすぎるのも、せっかくのいいことが隠れてしまうので危険ではないかと話していた。 ○WG メンバー ・プロモーションのための種を自分たちで認知するのはすごくよいと思う。建築家と話しながらまちのデザインルールを考えると、他のまちとの差異がプロモーションに繋がるかもしれない。その差異を認知するというのは結構大事ではないか。 ○WG メンバー ・伊那市にはナショナルチェーンが少ない。なぜかというと、人口が10万人未満だったり、土地がなかったり、中心市街地では建物が消防法の基準を満たさないから。必然的に出店は個人店になる。全国一律のデザインコードのお店が出店しないことがレトロ感や地元感があるまちにつながっているのではないか。 ○WG メンバー ・伊那市は大型店舗がドーナツ状に出店されていて、郊外のお店も普通にあり、まちなかの店も両方残っていて、それなりに賑わっている。都市計画や環状線がいい具合になっているのかもしれない。まちの価値を考える上で、郊外がどうなっているかを考えるのはよいかもしれない。 ○WG メンバー ・週3日～5日で箕輪町から飲みに来ているという人がいた。 ・生まれも通り町でカフェを経営している方が、昔は本当に飲み屋がたくさんあって、芸者もいたという話は印象的であった。 ・高遠に大河ドラマ館を作りたいという話もあった。まちなかの話をしてもまちの外は見逃せない	
-----------------	--	--

07_テーブル振り返り	し、まちなかとまちの外との情報発信の仕合いは議論としてあるかと思った。 ・分譲マンション建てたいという人もいた。まちなかは中心部だから人をたくさん住ませた方がよいのではないかという意見をお持ちだった。見逃してはいけないと思った。 ○WG メンバー ・コンパクトシティという発想は伊那市にあるか。 ○WG メンバー ・伊那市は、コンパクトシティの方向ではない。ゾーニングはするけれど、郊外から中心市街地に人を集めるのではなく、今暮らしているところで暮らし続けられるようにするという考え方である。 ○WG メンバー ・伊那市に高層の建物が無いのはなぜか。 ○WG メンバー ・売れないのが原因であるが、最近高齢者が増えてきて、雪かきも草刈りも嫌だし、まちなかのマンションで暮らしたいという声を聞くようになった。ただし、コスト的に合わない。 ・伊那街道と権兵衛街道のクロスロードがまちなかにあるので昔は賑わったはずである。高遠藩だった頃の話や、入舟に船があった頃の話、歴史をわかるようにすると今が見えてくるかもしれない。 ・昔のまちなかが賑わっていた写真を見ると、今でいうイオンモールなのだと思う。イオンモールに行けば何でもあるという感覚でまちなかに来ているのではないか。 ○事務局 ・昔「素通り町」と呼ばれていた寂しいイメージを持っているという話があった。 ・世界に通用するような伊那のまちを作り上げようという話も出てきた。 ・レトロな街並みや伝統をすごく大事にしている、まちを着物でいっぱいにするという実践をしたいという話が出た。 ・若者に自分の知識を伝えていきたいという話があった。 ・「中心市街地」と呼ぶのに抵抗があるという話もあった。 ○WG メンバー ・「中心市街地」と呼びたくないという話は深掘りできる。中心と郊外という感覚がない可能性もある	
--------------------	--	--

「教育」について	し、分散したそれぞれに中心があるということかもしれない。 ○WG メンバー ・セントラルパークに市役所があった頃は中心だっただろうけれど、たしかに今は中心ではない。 ○WG メンバー ・「できるまち」という付箋はどういう意味か。 ○事務局 ・なんでもできる実践の場、まちなかに行けば可能性があるという意味である。 ○WG メンバー ・昔の人の知恵を知りたいと思っている若者は結構いるのではないか。自分も知りたいと思っている。地域おこし協力隊員がやっている、なからごはんみたいな食文化も誰かが伝えなければ廃れてしまう。それは郊外でなくてまちなかでやってもより。 ○WG メンバー ・自分の子どもも郊外でなく、まちなかの祭りでどじょうに触れるようになった。 ○WG メンバー ・意外に水辺に近寄れる場所が少ない。天竜川が急流ということもあるが、市役所の噴水くらいしかない。 ○WG メンバー ・「対話の場」であまり話が出なかったが、まちなかで教育を考えると、図書館、生涯学習センター、創造館という教育施設の集積がある。 ・さきほどの「若者に自分の知識を伝えていきたい」という話から考えたが、まちの歴史や商売を伝えていくというのは、商店街も活かして、生涯学習、歴史教育という文脈で、1つ問いができるのではないか。 ○WG メンバー ・看板建築は建築物としての価値が高いのではないかという話も出ていた。 ○WG メンバー ・看板建築は実は疑似看板建築で、アーケードは日本初か2番目のものと聞いた。そういったことをちゃんと調べて共有するのもよいかもしれない。 ○WG メンバー ・1回大火があり、1番賑やかな時代に建て直したために統一されている。その後日本が不景気になっ	
-----------------	--	--

	て、作り直すことができなくなり、そのまま維持されてきた。 ○WG メンバー ・単なるエンタメでなく、まちを知るといような学びに繋がるエンタメになればよい。	
2、今後の進め方について		
	○WG メンバー ・ちょっとイベントをやるという程度の話であれば、別にこの WG メンバーがやらなくてもよい。 ・アーバンデザインの話など、少し捻るかレベルを上げたジャンプアップした問いにしないと、「わざわざ伊那市じゅうの人を集めてやることなのか？」と言われてしまう。 ・事務局資料のデータマイニングからのレベル感であると市民活動の域を出ない。トライアルを増やすだけになり、「官民共創の新しいまちづくりってそれ？」と言われてしまう。 ・ジャンプアップの話をこの WG でして、「こういう問いができます。」と言うと、参加者からすれば突然で「アレっ？」となる。 ・第3回目ぐらいを各グループのキックオフに設定し、みんなで仮説の問いを出した上で、自分だったらこう参加できるとか、こうチャレンジするみたいな話を一旦挟んだ方がよい。 ・このワークは、グループをぐるぐる回しながら、参加者の興味関心を接続したり分解したりして、問いという形に仕上げていく作業なので、かなり大変である。ワークの設計、ファシリテーターのレベルも必要である。 ・ただし、大変な思いをしても、そのワークを経て、問いに辿り着いた方がよい。 ○WG メンバー ・市民活動の1つとして何かやりたいことがあって「対話の場」に参加した人もいる。 ・移住してきてやりたいことがあるけれど、地元の人と繋がりが無いとか、仲間がいないという人にとって、この協議会は出会いの場所であると思っている。 ・大枠のところで、ジャンプアップの新しいまちづくりをやりながら、その周りで、スペインオフでどんどん動けるところは動いていきましょうというようにしておけば両方いけるのではないかな。	

	○WG メンバー ・レベル感として、それは大事だね、今までなかったねということは、この協議会の取組としてあるのではないか。例えば、移住者の方と元々住んでいる方のコミュニティが接続されていないから、その接続の場作りは必要となるが、市民活動の延長線上であると、この協議会でやる必要はないと思う。前もコレやったよねとなりそうな気がする。 ・要は協議会としてどこを目指すか、球数を増やすというのも1つの回答であると思う。 ・今までと同じ人でなくて、新しい人が参画するのは意味があるという捉え方もできる。「対話の場」には、何かに関わりたい、参加したいけれど今はやっていないという人がたくさん来ていたと思うので、その需要はあると思う。 ・「対話の場」に来たすべての人がまちづくりに参加するのが1年目の目標、それら取組を組み合わせたりしながら具体的に新しい取組に引き上げるのが2年目の目標でもよいのではないか。 ・「対話の場」のあれだけのパワーをまちに投下して、まちづくり参画割合を増やすというのは、新しい面白いことが起こる最大の手だと思う。 ・そうすると、「対話の場」に参加した人の中でファシリテーション能力がありそうな人をこちら側に引き込むなど、次のアクションが決まってくる。どちらでもよいと思う。 ○WG メンバー ・来年度の補助金のネタを探すためにこの協議会をやっているのだとしたら、しっかりテーマを決めてやっていかないといけないかもしれないけれど、そもそも考えること自体がまちづくりでしたという結論になっても、それはそれでよいのではないかと思う。しかも、今までまちなかに興味がなかった人たちがまちづくりに参画している時点で私たちがやった意味があると思う。 ○WG メンバー ・協議会が、移住の方や、地域おこし協力隊の方などの入口としてあるだけでもすごく価値があると思う。入口となって、自分で何かやろうというテーマが見つかったり、この人に相談すればいいんだということがわかるまでのところをカバーできたら貴重なものだと思う。 ○WG メンバー	
--	---	--

事務局的な立場としてどうか	・長野県のまちづくり見ていると、イノベーターみたいな超面白い店ができて、そこに集まる人たちの流れ、動きを利用して次のステップが始まるケースが多い。 ○WG メンバー ・全国的に知られている取組でも、結局やっている人たちだけで盛り上がっていて、地元の人が全然知らないというケースもある。 ・伊那の場合は、地元の人、移住者の方がグループを作っている色々なイノベーターがいる状態。それが全部横に繋がる形が目指すところなのではないか。 ・キャリアフェスや、朝マルシェ、商工会議所青年部や青年会議所等の地元企業の若手とか、今でもいろいろな取組がされている。全体の動きとして、市民の3分の1ぐらいが積極的にまちづくりに関わっているということがわかるような形にしていくことがよいのではないか。 ○WG メンバー ・活動人口を目標値設定するのはありだと思う。島根県海士町は外から見たらものすごく盛り上がっている感じがするが、実際動いている町の人には10%程度らしい。10%の町の人が動くと、外から見たらものすごく盛り上がっているように見える。例えば活動人口6,000人を目標とし、6,000人をどう作るかがワーキンググループの目標ですと言ってもよいかもしれない。 ○WG メンバー ・「対話の場」ではファシリテーターができそうな人や、イノベーターのような人がたくさんいた。 ・「対話の場」のように誰もが話し合って、話し合う人が増えて、活動人口が増えること自体がまちづくりだとすると、活動人口をどう増やすか、対話の場をどう増やすか、情報が貯まって、マッチングできる状態をどう作るかというのは、もしかしたら問いになるかもしれない。 ○WG メンバー ・そういった「対話の場」に例えば高度化の話、宅急便のステーション化、公共交通の話などハード的な話も投げ込むことはできる。 ・話がだいぶ広がっているが、事務局的にはどう考えているか。 ○事務局	
----------------------	---	--

	・個人的には、球数を増やすということについて、関わりたい人が参加するのが一番だと思うので、いくつも球数が増えればよいと思うが、事務局としてはどこかで手が回らなくなると心配している。 ○WG メンバー ・例えば事務局は、1人3グループ×3人で9グループしか受け持てませんということは言ってくればよい。WGの中でプロボノ的に受け持ってくれるメンバーがいるかもしれない。 ○事務局 ・関わる人を増やしてくのはこの協議会の意義であると思う。いろいろな年代の人が関わり、場ができる、そんな方向で考えられる第2回目なればと思う。 ○事務局 ・「伊那に生きる、ここに暮らし続ける」というビジョンに沿って、このWGの取組内容によっては、新産業技術の推進、公共交通の利便性向上、森林を活用したまちづくり、といった伊那市が進める施策の活用ができればとも考えている。 ○WG メンバー ・まちなかのIT化や森林化は、いかに市民が心地よく暮らせるかというところの手段であって、目的ではない。 ・例えば伊那市の新産業技術の取組などは郊外で行われているものが多いが、「伊那市ではこんな取組で持続可能な循環のまちづくりをしています」ということを伊那市の玄関口である、まちなかを舞台にプロモーションするというのはすごくよいと思う。 ○WG メンバー ・このWGでは、暮らしやすさとか、住んでみたいとか、直接市民の幸せに繋がる議論をしていると思っている。 ○WG メンバー ・一度ロジックモデルを整理したほうがよい。このWGでやっていることの狙いが、伊那市の目指す姿にどうつながるのか、因果関係を図に整理して説明する1枚の資料が作れればと思う。 ○WG メンバー ・今日何かをまとめるのが難しそうなので、事務局に急ぎ議事録を作成してもらい、2月6日(木)全体会	WGの取組と伊那市の目指す姿の因果関係を図に整理した資料を作ってみる。 事務局は、至急議事録を作成する。
--	---	--

	後の WG で、議事録を眺めながら今回の続きを話し合うことにしたい。	
--	------------------------------------	--

■今後のスケジュール

- ・ 2 月 6 日(木) 午後 6 時 30 分～ 市役所 1 階多目的ホール
協議会全体会、終了後 WG